

令和8年8月市長定例記者会見

日時：令和8年8月6日（木） 午前10時～

場所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、時事通信社、

チューリップテレビ、射水CATV、

庄東タイムス・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、

環境課長、子育て支援課長、商工企業立地課長

Q1. 熊本地震が真夏に発生し、防災備蓄の不足や車中泊による熱中症などの課題がみられるが、防災面で市としての課題があれば聞かせてほしい。

A1. 夏場の災害における避難所については、備蓄として水や簡易トイレの必要数確保を順次進めている。

また、避難所においての空調について、市内小・中学校の普通教室・特別教室は、すでに空調設備が整備済みで、体育館は令和8年度から令和10年度までに整備する予定である。このほか、市内に27あるコミュニティセンターの大集会室等については、14施設が整備済みで、今年度中に2施設に整備予定、残りについては、状況を踏まえながら今後検討していく。

夏だからこそ必要なもの、たとえばファン付きのジャケット等についても、被災地では求められているとも聞くので、導入について検討していきたい。

Q2. 港町地区の液状化対策について、地下水位低下工法による事業実施に関し、地元自治会との合意形成が図られたが、地元住民からの要望はあったか。

A2. 今回、市の実証実験の結果と今後の進め方について説明した上で、合意をいただいたところ。実際には転居した方も多くおられる中で、地域の今後について地元の皆様から様々な思いも伺った。

抜本的な液状化対策をしっかりと成し遂げた上でのことであるが、今後も地域の皆様の思いをどう実現できるのか、何が地域にとって良いの

かについて、引き続き、地域の皆様と対話していきたい。

Q 3. 富山きときと空港が富山高山すし空港へと愛称を変えたことについて、市長の受け止めと期待を聞かせてほしい。

A 3. 愛称変更については、様々な反応、賛否両論があるものの、インバウンドも含めた利用客の増加を目指し、「高山」や「すし」といった分かりやすいキーワードを盛り込んだことが狙いと捉えている。

台北便も復活し、効果が発揮されることを期待したい。

市としても、ここ数年台湾の旅行業者向けに観光PRを行っており、今年も台湾を訪問するが、空港に対する反応も見ながら、一人でも多くの誘客につなげていきたい。

Q 4. 富山県の県立高校再編が発表されたが、射水市内の3校について、どのように受け止めているか。

A 4. 県において「新時代とやまハイスクール構想」に基づき、将来的な県立高校の利用を検討された中、小杉高校の「未来探求ハイスクール」選定、大門高校の閉校が示されたところ。

大門高校については、これまでも多くの卒業生の皆様が各分野でご活躍をされており、市においても非常に大きな役割を果たしていただいている。在校生や卒業生、地域の方は残念な思いをされているであろうし、地域のシンボルがなくなる影響は決して小さくないと考える。まずは、在校生の学習環境の維持に万全を期すよう、また跡地についても地域の思いをしっかりと反映していただけるよう県に働きかけていきたい。

新湊高校については、将来的な構想において、3期目の再編の際に、射水市内で1校から2校となっているので、今後志望倍率が落ち込む場合などは、県において厳しい判断をする可能性があるかと捉えている。市では市内の県立高校と連携し、地域課題の解決について取り組んでおり、そういった取組を通じて、魅力ある学校作りとなるよう努めていただければと思う。

本市の中学校3年生は約760人いるが、市内の県立高校の定員は3校で440人ということは、半数近くの子が市外の学校に進学するという状況になっている。今回1校が閉校になることで、さらに選択肢が減る

状況となることが心配である。

市としては県に対して、子どもたちがしっかりと未来を描けるよう、環境も含めた適正な学校配置について考えていただくようさらに強く申し上げていきたい。残った学校については、魅力ある学校づくりについて、引き続き連携を図っていきたいと考えている。